



環境省
エコアクション21
認証番号 0000098

第67期

環境経営レポート

【活動期間】

2023年3月1日～2024年2月28日

【発行日】

2024年5月31日



中央電機商会

環境委員会・EA21事務局より

本書は、当社のエコアクション 21 認証範囲内を中心に皆様にご覧いただきたい活動について掲載していません。当社では2019年度よりSDGsに係る活動を開始し、本書でもその取り組みについても触れています。本書を通じて、当社の環境に対する姿勢や活動にご理解を深めていただければ幸いです。

- 沿革 -

- 1956年 群馬県前橋市岩神町において、高浦仙五郎が個人営業にて自動車電装整備業を開始
- 1958年 有限会社 中央電機商会に改組
- 1959年 前橋市岩神町に工場建設
- 1964年 前橋市石倉町(現本社所在地)に工場移転
- 1968年 自動車整備工場開始。自動車分解整備事業認証を取得。資本金 350万円に増資
- 1974年 伊勢崎営業所・工場開設。4月、高浦孝好、代表取締役に就任
- 1979年 渋川営業所・工場開設
- 1994年 上武営業所・工場開設。11月、本社第2工場増設
- 1995年 自動車完成検査場設置。国土交通省認定 東京陸運局指定 民間車検工場認可
- 2004年 エコアクション21取得(群馬県内第一号)
- 2010年 本社改装工事。DENSO ダイアグステーションとして認定
- 2017年 創業60年。代表取締役に高浦 亮が就任。ドコモショップ駒形インター店改装

- 目次 -

1.	会社概要	3
2.	実施体制と認証・登録の範囲	4
3.	環境理念と環境経営方針	5
4.	主な環境活動計画の内容	6
5.	環境経営目標と今年度実績	7
6.	環境関連法規の取りまとめ	11
7.	代表者による総合評価と今後	12

1.会社概要



社 名 有限会社 中央電機商会
代表取締役 高浦 亮
本社所在地 〒371-0841
群馬県前橋市石倉町 5-14-14
代表番号 027-251-7151
FAX番号 027-252-2222
創 業 1956年(昭和31年)
資 本 金 3,300万円
従 業 員 数 42名(令和6年現在)

資 格 自動車分解整備事業認証 指定番号 7-588
国土交通省指定 自動車整備事業認可

事 業 内 容 自動車電装整備業
特定自動車分解整備事業
情報家電機器小売業

- 営業所 -



伊勢崎営業所



上武営業所

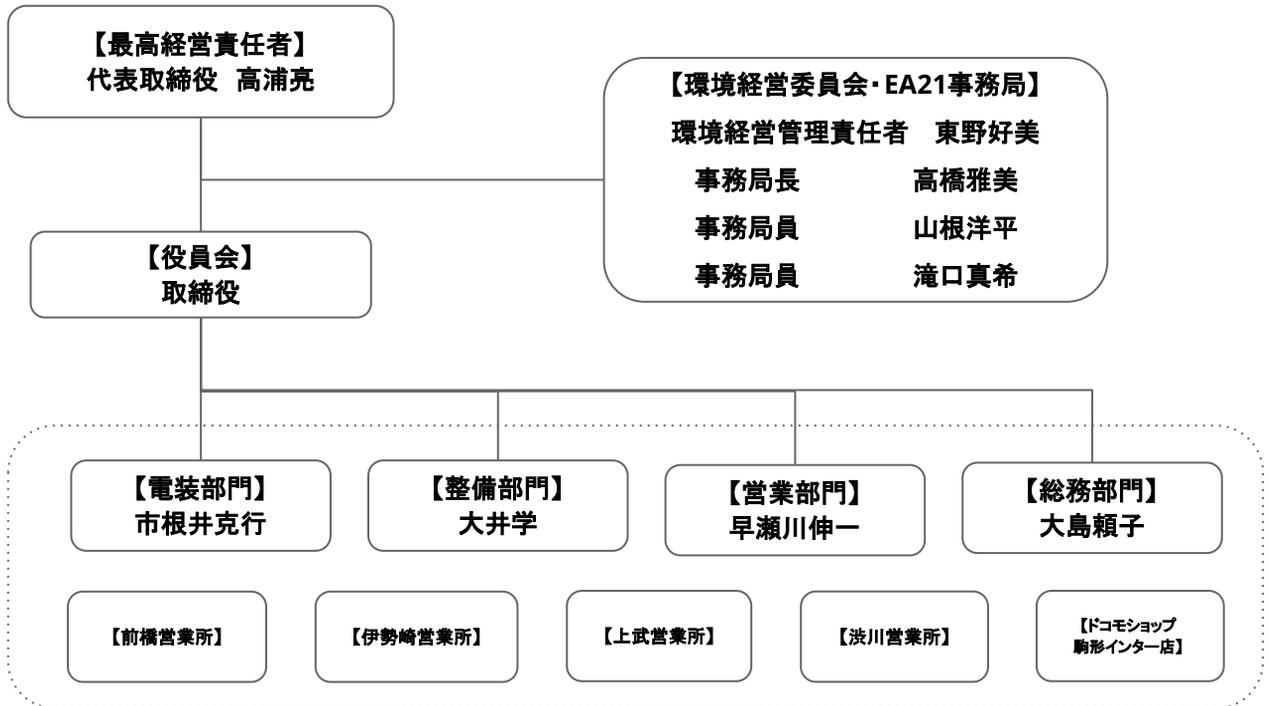


渋川営業所



ドコモショップ駒形インター店

2.実施体制と認証・登録の範囲



2018年3月1日 作成

職名	役割
最高経営責任者	① 環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。 ② エコアクション21の運用等に必要な経営諸資源を準備する。 ③ 環境経営方針を策定する。
環境管理責任者	① エコアクション21の運用等を円滑に行い、それに関わる情報を最高経営責任者に提供する。
事務局	① 事務局として、環境管理責任者を補佐し、実務全般を所管する。

【エコアクション 21の登録・認証範囲】

全組織、全活動で認証しています。

前橋本社及び第二工場
伊勢崎営業所及びドコモショップ駒形インター店
上武営業所
渋川営業所

3.環境理念と環境経営方針

有限会社中央電機商会は、環境保全が永続的に取り組むべき経営課題と認識し、下記の環境理念および環境経営方針を制定いたします。

< 環境経営理念 >

私たち有限会社中央電機商会は、社員1人ひとりがそれぞれの職場において、提供するサービス、販売する商品、および購入する資材など、常に環境を優先的に意識した業務を行うよう努めます。

< 環境経営方針 >

- 法規制の遵守
環境汚染を防止する法規制を遵守するとともに、環境負荷を削減するための自主目標を設定し、その達成に向けた取り組みを行います。
- 環境負荷の削減
サービス・販売・営業など、当社の事業活動の全ての場面において、エネルギーの消費を少なくするとともに、廃棄物を極力抑え、または廃棄物の適正処理を行い、環境負荷の削減を推進します。
- 社会貢献
環境保全活動について行政、地域との積極的な情報交換、情報開示を行い、社会貢献に努めます。
- 環境管理体制の確立
環境管理体制を整備し、環境保全に対するチェック体制を確立します。
- SDGsへの貢献
有限会社中央電機商会は、持続可能な世界の実現に向け国連が定めた 2030年までの国際的な目標であるSDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) に対して、その理念に共感し、事業活動と社会貢献活動を通じて、目標達成に貢献します。

2022年3月1日 策定
代表取締役 高浦 亮

- SDGsへの取り組み -



4.1 主な環境活動計画の内容

大項目	小項目	2023年												2024年		担当
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月			
		上期						下期								
Co2排出の削減	昼休み消灯の徹底 (工場・事務所)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
	冷暖房の温度管理	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	各事業所		
	クールビズ・ウォームビズの推進	○	○	○					○	○	○	○	○	各事業所		
廃棄物排出量の削減	ガソリン・軽油の削減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
	廃棄物分類の徹底	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
	ペーパーレス推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
水使用量及び排出量の削減	リサイクルパーツ使用推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
	洗車場における節水 ノ近隣GSの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	本社		
	止水栓の点検(増し締め、緩みの点検)			○	○	○					○	○		各事業所		
公害防止への取組	洗い場、トイレにおける節水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
	フロンガスの的確な取扱い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
	バッテリーの的確な取扱い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
環境配慮製品拡販	オイル類の的確な取扱い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
グリーン購入の推進	EMS機器(デジタコ・ドラレコ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
その他の取組	グリーン購入品目拡大取組	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各事業所		
	環境セミナー等勉強会参加への取組	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	EA21事務局		
	地域・社会貢献活動の推進		○						○	○				各事業所		
活動実績報告	エコドライブ推進協議会参加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	本社		
	営業所常駐型から、本社集約の受注センター化に転換。 人と仕事を一箇所に集め、業務の効率化と人材育成に注力する。															

4.2 主な環境活動の結果と評価

大項目	小項目	2023年												2024年		評価
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月			
		上期						下期								
Co2排出の削減	昼休み消灯の徹底 (工場・事務所)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	冷暖房の温度管理	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	OK
	クールビズ・ウォームビズの推進	○	○	○					○	○	○	○	○	○		OK
廃棄物排出量の削減	ガソリン・軽油の削減	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	廃棄物分類の徹底	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	ペーパーレス推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
水使用量及び排出量の削減	リサイクルパーツ使用推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	洗車場における節水 ／近隣GSの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	止水栓の点検(増し締め、緩みの点検)			○	○	○					○	○				OK
公害防止への取組	洗い場、トイレにおける節水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	フロンガスの的確な取扱い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	バッテリーの的確な取扱い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
環境配慮製品拡販	オイル類の的確な取扱い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
グリーン購入の推進	EMS機器(デジタコ・ドラレコ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
その他の取組	グリーン購入品目拡大取組	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	環境セミナー等勉強会参加への取組	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	地域・社会貢献活動の推進		○						○	○						OK
活動評価	エコドライブ推進協議会参加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OK
	営業所体制を本社受注センターに集約した事で様々な効率化を実現出来て節約にも繋がった。 環境セミナー等はコロナ禍が開けてリアルに開催されるようになり参加が可能となった。															

5. 環境経営目標と今年度実績

下記、環境経営目標を策定します。

- 環境経営委員会の目標と方針 -

カーボンニュートラルを目指す

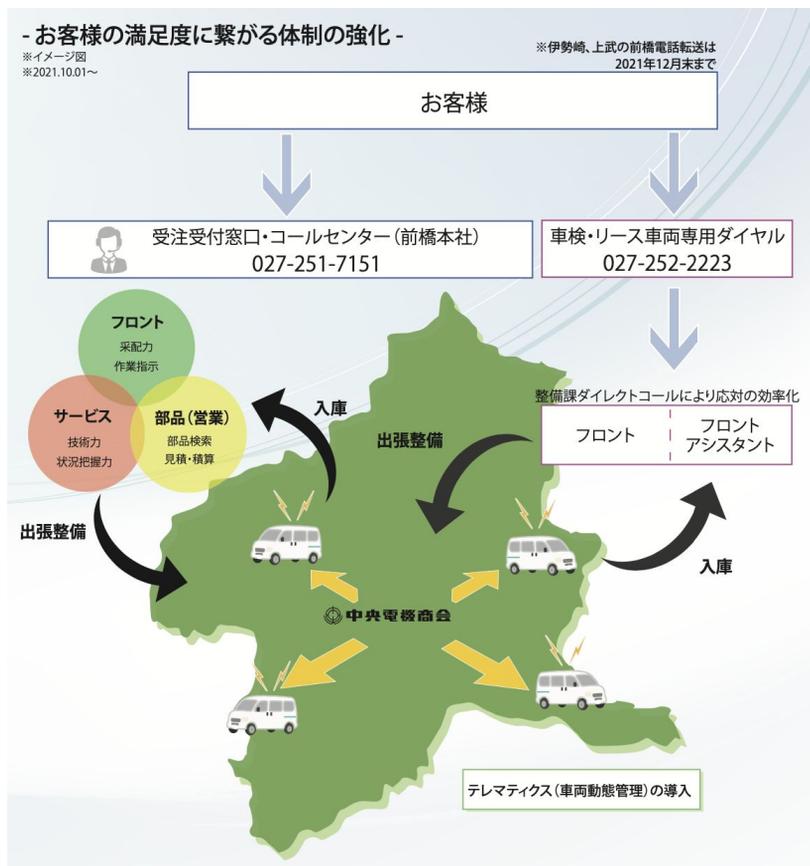


ドコモショップ駒形インター店では、CO2排出量実質ゼロのドコモでんきGreenの販売を促進していきます。

ドコモでんきGreenとは、太陽光・風力・地熱などCO2フリーの再生可能エネルギーを活用した地球にやさしいプランです。

- 環境経営の社員目標 -

技術をエコに生かす



令和3年10月1日より伊勢崎営業所、上武営業所の受付業務を前橋本社と統合

業務のご依頼窓口(受付センターの新設)を前橋本社代表番号に一本化し、お客様への対応力を強化

→効率的な業務分担
移動距離・時間の見直し、
効率化

- 2023年度目標 -

2021年度削減目標に対して、2023年度の実績排出量を比較いたします。

「二酸化炭素排出量」「廃棄物排出量」「水使用量及び排出量」の実績詳細は後述しています。

2023年度の目標設定値は、2021年度比1.0%減(燃費は0.6%向上)を目標としました。

項目	目標	'22	'23	'24	'25	'26
CO2排出量	2021年度比	0.5%削減	1.0%削減	1.6%削減	2.3%削減	3.0%削減
廃棄物排出量	2021年度比	0.5%削減	1.0%削減	1.6%削減	2.3%削減	3.0%削減
水使用量	2021年度比	0.5%削減	1.0%削減	1.6%削減	2.3%削減	3.0%削減
社有車燃費	2021年度比	0.3%向上	0.6%向上	0.9%向上	1.2%向上	1.5%向上

- 環境経営計画 -

2021年度の活動実績および中間審査結果の評価・見直しを行いました。評価・見直しを受けて、経営陣から指示された2022年度以降の活動計画は以下のとおりです。

1 新たに5カ年計画の目標を定め、その原単位を見直し排出量などの適正な比較を行う

2 事務局の活動を社内システムや回覧板を使用し広く周知する

3 2017年度版ガイドラインに準拠するよう必要書類などを再確認する

- 計画の管理責任者 -

Co2/廃棄物/水の排出

公害防止への取組

環境配慮製品拡販

その他取組

市根井 克行

大井 学

早瀬川 伸一

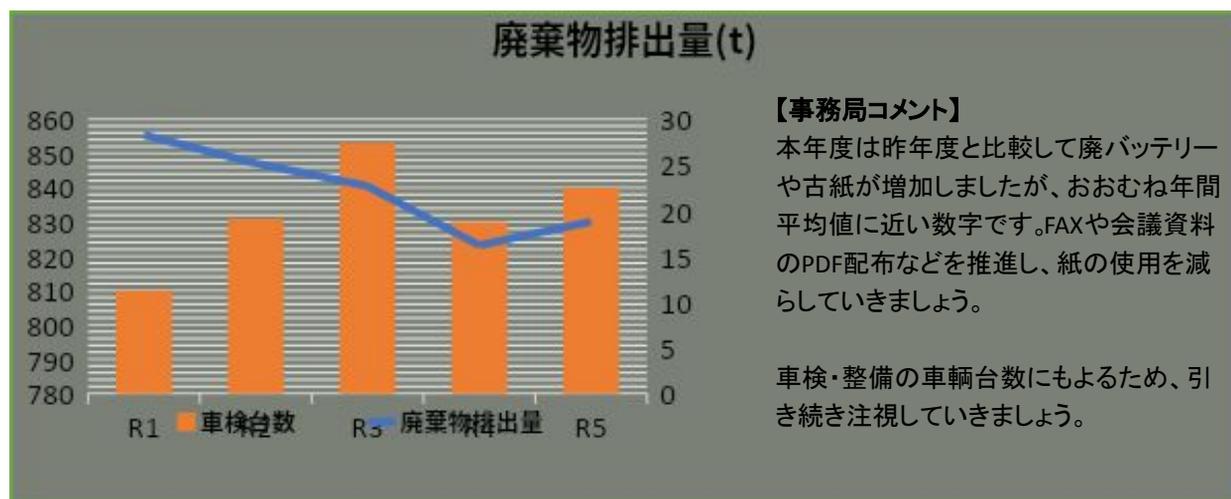
高橋 雅美

- 中期計画の最終結果 -

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 目標	2023年度 実績	評価
CO2排出量 (kg-CO2)	126,574.60	122,926.15	119,150.37	154,404.37	151,209.98	152,860.33	127,251.87	約16.8%減 
廃棄物排出量 (t)	30.59	28.26	25.14	22.67	16.19	22.44	18.79	約17%減 
水使用量 (m)	385.00	380.00	328.00	328.00	293.00	324.72	243.00	約26%減 
社有車燃費 (km/L)	12.60	14.22	11.22	11.44	12.05	11.51	13.36	約17%増 
環境配慮型製品取扱 (台)	3,484	3,109	2,709	2,638	2,617	-	3,141	

環境経営の現状です。

参考値として、年間の車検台数を表示しています。



水排出量(m³)

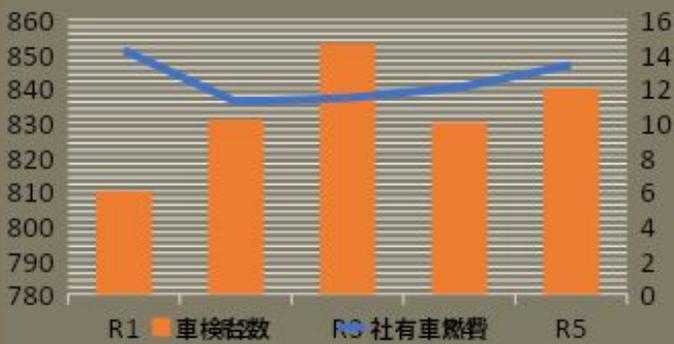


【事務局コメント】

本年度も水排出量の削減は継続中です。

手洗い場、水洗トイレ、流し台などその他の水利用に関しても一定の節水が見られるため、今後も継続していきましょう。

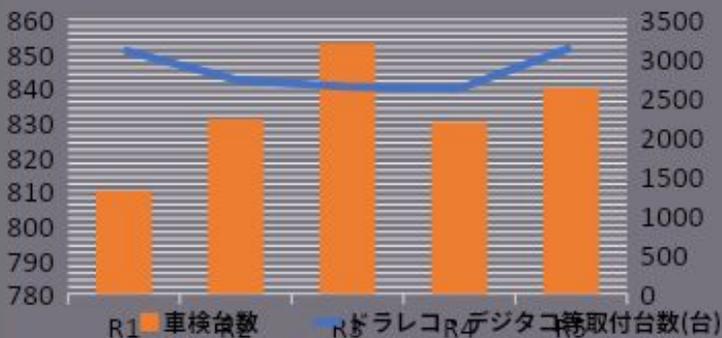
社有車燃費(km/ℓ)



【事務局コメント】

全体的に燃費が向上しています。日々の意識の賜物かと思いますので、移動距離にかかわらず安全運転を心がけ、不要な機材・荷物は減らすようにしましょう。

ドラレコ・デジタコ等取付台数(台)



【事務局コメント】

グリーン製品については取り付け台数が減少傾向にありますが、取り付け済み車輛が増えてきたためとも考えられます。引き続き取り組んでいきましょう。

6.環境関連法規の取りまとめ

2024年2月現在、環境関連法規への違反はありません。

また、関係当局より違反などの指摘および近隣住民からの苦情はありません。

事業活動により 環境汚染物質が 排出されるもの	分類	遵守すべき法令
《廃油》 ・エンジンオイル ・オートマチックオイル ・デフオイル ・ブレーキオイル ・ミッションオイル	・産業廃棄物	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第12条(事業者の処理) ・下水道法 第12条(事故時の措置) ・水質汚濁防止法 第14条(事業者の責務)
《エチレングリコール》 ・不凍液(LLC)	・産業廃棄物	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第12条(事業者の処理) ・下水道法 第12条(事故時の措置) ・水質汚濁防止法 第14条(事業者の責務)
・廃タイヤ	・産業廃棄物	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第12条(事業者の処理)
《希硫酸、廃プラスチック》 ・廃バッテリー	・有価資源	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第12条(事業者の処理) ・下水道法 第12条(事故時の措置) ・水質汚濁防止法 第14条(事業者の責務)
《廃鉄、廃プラスチック》 ・各種取外し部品	・産業廃棄物	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第12条(事業者の処理)
・R12	・第一種特定製品 (重機用のエアコン) ・第二種特定製品 (普通車のエアコン) ・事業所のエアコン	・使用済自動車の再資源化等に関する法律 第10条(引取業者の引渡義務) ・特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律 第4条(事業者の責務) ・フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
・R134a ・R404A	・第一種特定製品 (重機用のエアコン) ・第二種特定製品 (普通車のエアコン) ・事業所のエアコン	・使用済自動車の再資源化等に関する法律 第10条(引取業者の引渡義務) ・特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律 第4条(事業者の責務) ・フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
・コンプレッサーによる振動 ・コンプレッサーによる騒音	出力7.5W以上	・騒音規制法第6条(特定施設の設置の届出) ・振動規制法 第6条(特定施設の設置の届出)
・事業所から排出される排水	—	・浄化槽法
・事業活動全般	—	・消防法
・事業所から排出される一般ごみ	一般廃棄物	・前橋市廃棄物の処理及び清掃に関する条例
・事業所から排出される廃棄物のマニフェスト	産業廃棄物	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の3第6項
・情報通信機器および電子機器	-	・使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律

7.代表者による総合評価と今後

2023年の自動車業界は、長らく低迷した半導体不足の解消により、新車生産販売が回復傾向となりました。コロナ禍以降の経済市場の振り返り傾向の下、新車への電装品搭載ビジネスは従来の仕事量を確保する事ができました。また、夏季の平均気温が過去最高を大きく上回る圧倒的な暑さとなるなど季節変動に恵まれ、カーエアコンの修理業務における繁忙期は長期化し、受注環境に恵まれました。

一方、中古車販売大手の保険金不正請求事件により、自動車業界や保険業界への信頼は大きく揺らぎ、社会問題にまで発展しました。当社としましては対岸の火事と軽視することなく、より詳細な作業報告や見積作成などに努め、業務品質向上の機会と捉えたいと考えております。

2023年度は、歓迎すべき好循環と市場を脅かす不祥事という波乱に対応した一年でありましたが、あらゆる状況に適正に対処しながら乗り越えた一年であったと総括しています。

当社を含めてこれからの自動車業界が迎える課題は車両のEV化と整備人材の確保です。

2023年4月時点での純EV車の国内普及率(HV除く)はまだ10%にも達しておらず、当面はガソリン車とトラック等のディーゼル車のメンテナンスビジネスに注力し、既存の事業を継続する事はできますが、ロシア、ウクライナ情勢に象徴されるエネルギー供給への課題や中国製の格安Vの普及、更にはV競争によるカーメーカーの淘汰、再編により市場のEV化が急速に進むことも考えられます。また国内の整備士不足はさらに進むため、内燃機関メンテナンスの既存技術は再評価され、待遇改善と共に人材の確保がより一層困難になっていきます。

自動車業界の先行き不透明感は様々な場面でしてきされていますが、当社の自動車整備事業並びに自動車電装整備事業社会に必要とされ、能力を社会に活かせる未来ある事業と捉えています。例を挙げれば、適切な車両メンテナンスはCo2排出抑制につながり、より高度な自動車整備技術を学習、習得する事は高付加価値として待遇改善に寄与します。また、EV化により高度化する車両の電動制御システムの解析分析能力は力仕事を必要としないため、性別を問わず整備士の門戸を開くなど働く機会や働き甲斐にもつながっています。

7.代表者による総合評価と今後

当社の社員は、日々知らず知らずのうちに SDGsのポリシーと共鳴する業務に従事しており、その職場は地球環境並びに人材育成の場として極めて明るい展望があると自負しています。

地球温暖化や少子高齢化など、業界を問わず厳しい社会情勢の到来は避けて通る事は出来ませんが、収益確保だけに固執せず、環境保護や働き甲斐の向上などに貢献できるよう、これからも、より堅実な経営を心掛けてまいります。

2024年 5月 31日

有限会社中央電機商会

代表取締役 高浦 亮



作成担当部署(ご意見・お問い合わせ先)

エコアクション 21 推進委員会事務局
TEL :027-251-7151(代)
MAIL : information@cyuodenki.co.jp

